

北方圏における総合型地域スポーツクラブ会員の運動実施率について

著者	永谷 稔, 千葉 直樹, 畠山 孝子
雑誌名	北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要
巻	5
ページ	29-36
発行年	2014
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00000107/

北方圏における総合型地域スポーツクラブ会員の 運動実施率について

A Study about Member's Activity Rate
in Northern Area All-Round Community Sports Club

永 谷 稔¹⁾

Minoru NAGATANI

畠 山 孝 子¹⁾

Takako HATAKEYAMA

千 葉 直 樹²⁾

Naoki CHIBA

I 緒 言

我が国では、平成13年度から23年度においてはスポーツ振興基本計画に基づき、主に成人の週1回以上の運動実施率を50%以上にすることを目標としてきた。また平成24年に策定されたスポーツ基本計画においては、今後10年程度を見通した概ね5年後をメドとして、成人の週1回以上の運動実施率を65%程度に向上させようと計画している。

成人週1回以上の運動実施率は、文部科学省統計によると、平成21年においては45.3%に留まり、笹川スポーツ財団調査によると、平成12年から20年の平均においては52.8%であったことが示されている。とくに、北海道においては、前出の笹川スポーツ財団調査によると50.1%であった。これは全国順位によると27位を示し、全国平均には及ばないがやや低い傾向にあると言える。

北海道は積雪寒冷地域であり、年間の約3分の1である4ヶ月の冬季間は運動実施が制

約される。本学周辺北海道江別市においては、平成24年度における週1回以上の運動実施率は30.8%と報告されている。北海道のような積雪寒冷地域においては、身体運動活動量は減少する傾向が示されており、致し方ないことと言える。

しかしながら、積雪寒冷地においても、アルペンスキーやクロスカントリースキーに代表される屋外でのスポーツ活動の実施や、雪かきなどによる生活必需的な活動が実施されるため、冬季間の積雪寒冷地域での身体活動量が著しく減少する訳ではなく、後者には相当の運動量が確保されとの報告もある。ただし、これらの積雪寒冷地における冬季間の屋外での身体活動は、やはり、用具や道具を揃えたり、移動手段を考えたりすると、気軽に出来るものではなく、また生活必需的活動は決して積極的・能動的な活動であるとは言えない。

本学では、平成17年に北方圏生涯スポーツ研究センターが設置され、平成19年には、総

1) スポーツ教育学科 Department of Sports Education

2) 短期大学部ライフデザイン学科 Hokusho College Department of Life Design Studies

合型地域スポーツクラブ（通称：スポルクラブ）が設置された。こうした北方圏における運動実施率向上や健康増進等を目的に活動が始まり、研究センターを拠点として毎年5月から3月まではほぼ通年において、さまざまなプログラムを展開している。会員数も年々増加し、現在では491名の会員を有している。これまでも会員の協力によりアンケート調査や体力測定が数多く行われ、それらが研究成果として報告されている。

スポルクラブの会員数は設立後2年目以降増加傾向（図1）である。また、現在の会員の居住地分布は（図2）ほとんどが本学周辺である。しかしながら、会員の年齢層（図3）に偏りがある。スポルクラブは、大学施設を拠点として活動することから、学生や研究活

動との兼ね合いもあり、一般的なスポーツクラブやフィットネスクラブとは開設時間の違いや休祝日不開設など、さまざま異なっている。総合型地域スポーツクラブであるので、一般的なスポーツクラブやフィットネスクラブとは異なる訳だが、その中でもさまざまな運営スタイルがあり、並列的評価は難しい。スポルクラブにおいては、本学周辺住民の運動実施率向上については、会員の年齢層の偏りなど、まだまだ課題が見られる。

スポルクラブは本学周辺住民の運動実施について、ある程度寄与できているものであるが、具体的な数値としては明らかにはされていなかった。例えば、本学周辺江別市の運動実施率に貢献したかどうか、あるいは全国の運動実施率とはどうかという比較については、国や地方自治体の統計調査が毎年実施されることはなく、一部の地域や区域を対象として比較することは困難であった。

そこで、本研究では、北方圏の総合型地域スポーツクラブであるスポルクラブにおいて、会員の運動実施率がどの程度向上しているかを明らかにしようとするものである。国や自治体を実施する運動実施率との比較は困難であることから、スポルクラブ会員が、スポルクラブに入会したことによって、どの程度運動実施につながったかということに焦点

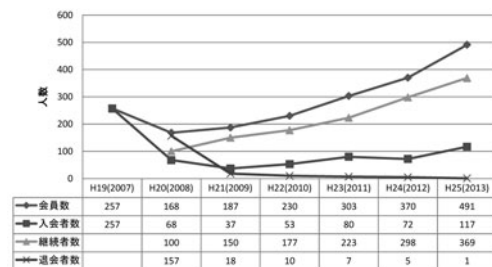


図1. 会員数推移（設立時～現在）

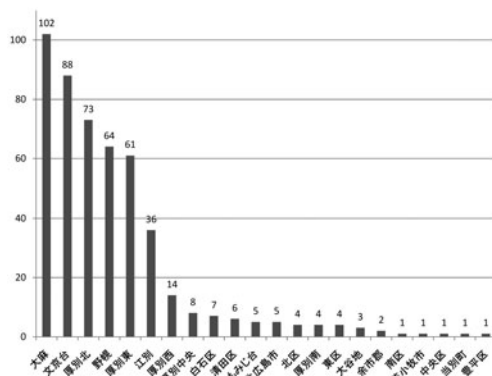


図2. 会員居住地分布

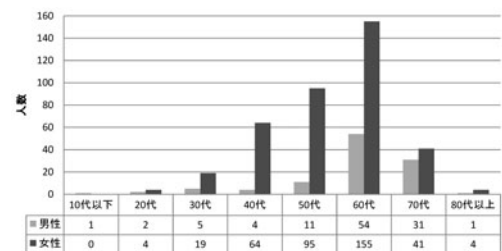


図3. 男女別年齢分布

を当ててるものである。

員の入会後の運動実施について

Ⅱ 方 法

本研究では、現在のスポルクラブに在籍する全会員を対象に「運動実施に関する調査」として平成25年11月にアンケート調査を実施した。調査内容は表1に示すとおりである。調査対象者はスポルクラブ全会員491名、回収数222、回収率45.2%であった。

これらの調査結果を元に、具体的には以下の項目について明らかにするものである。

1. スポルクラブ入会前の運動実施について
2. スポルクラブ入会後の運動実施について
3. スポルクラブ入会前に運動実施がない会員の入会後の運動実施について
4. スポルクラブ入会前に運動実施がある会

Ⅲ 結果と考察

1. スポルクラブ入会前の運動実施について

表2は、スポルクラブ入会以前の運動実施について示したものである。

スポルクラブ入会前に運動していなかった割合が最も多く34.6%であった。体育館や公民館などの体育施設で運動していた割合が次いで多く31.5%であった。すでにスポーツクラブやフィットネスクラブで運動していた割合は低く10.5%であった。家の周りや公園で運動していた割合は9.7%であり、そのほかで運動していた割合は13.6%であった。そのほかで運動をしていた例としては、テニス、登山、ゴルフ、スキー等が挙げられた。何らか運動をしていた割合を合計すると65.3%で

表1. 調査内容

1. スポルクラブ入会前の運動実施状況
2. スポルクラブ入会後のスポルクラブ以外での運動実施状況
選択肢
1. 運動実施していない
2. スポーツクラブやフィットネスクラブ
3. 体育館や公民館などの体育施設
4. 家の周りや公園
5. そのほか

表2. スポルクラブ入会前の運動実施について

	n	%
スポルクラブ入会以前に運動をしていない	89	34.6
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	27	10.5
体育館や公民館などの体育施設	81	31.5
家の周りや公園	25	9.7
そのほか	35	13.6
合計	257	100.0

あり、多くが運動していたこととなる。

これらのことから、今回の調査の会員回答者のうち、89名（回答者のうち34.6%）は入会前運動をしていなかったことから、運動実施率向上に確実に貢献していることが明らかとなった。しかし、回答者のうち65.3%が何らかの運動をしていたこととなり、より積極的な運動者がスポルクラブに入会していたと考察できる。また、スポーツクラブやフィットネスクラブに入会していた割合は10.5%と低く、体育館や公民館等の体育施設で運動していた割合が31.5%であったことから、スポルクラブの会費設定が比較的安価であることが入会誘因となったと考察できる。

2. スポルクラブ入会後の運動実施について

表3は、スポルクラブ入会後の運動実施について示したものである。

スポルクラブ入会後スポルクラブ以外で運動していない割合が最も多く40.6%であった。体育館や公園等の体育施設で運動している割合は次いで多く22.7%であった。また、家の周りや公園で運動している割合は16.4%、そのほかが16.0%、スポーツクラブやフィットネスクラブ運動している割合は4.3%であった。

これらのことから、今回の調査の会員回答

者のうち、家の周りや公園で運動している割合は2倍弱の16.4%へ増加し、そのほかも2.4%ではあるが増加しており、スポルクラブに入会したことによって、スポルクラブ以外での運動実施率も向上したと考察できる。体育館や公民館などの体育施設で運動している割合が入会前から8.8%減少していることと、スポーツクラブやフィットネスクラブで運動している割合が入会前から6.2%減少していたことは、両者ともにスポルクラブへ活動の場を移行したものと考察できる。

3. スポルクラブ入会前に運動実施がない会員の入会後の運動実施について

表4は、スポルクラブ入会前に「運動してなかった」会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

スポルクラブ入会前に運動実施がない会員のうち、スポルクラブ以外では運動していない割合は最も多く68.8%であった。家の周りや公園で運動実施している割合は16.1%であった。

これらのことから、スポルクラブ入会前に運動実施がなかった会員は、ほとんどがスポルクラブ以外では運動をしていないものの、家の周りや公園、そのほか（8.6%）、スポーツクラブやフィットネスクラブ（3.2%）、体

表3. スポルクラブ入会後の運動実施について

	n	%
入会後スポルクラブ以外で運動していない	104	40.6
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	11	4.3
体育館や公民館などの体育施設	58	22.7
家の周りや公園	42	16.4
そのほか	41	16.0
合計	256	100.0

表4. スポルクラブ入会前に「運動していなかった」会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	64	68.8
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	3	3.2
体育館や公民館などの体育施設	3	3.2
家の周りや公園	15	16.1
そのほか	8	8.6
合計	93	100.0

育館や公民館などの体育施設（3.2％）を合わせると31.1％がスポルクラブ以外でも運動実施するようになったことが明らかとなり、入会前に運動実施がなかった会員がスポルクラブでの活動を機に、運動実施の範囲が広がったことが考察できる。また、会員同士のつながりからスポルクラブ以外での運動実施の誘因になっていることも推測できる。

4. スポルクラブ入会前に運動実施がある会員の入会後の運動実施について

表5, 6, 7, 8, 9は、スポルクラブ入会前に「運動していた」会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

まず、スポルクラブ入会前に「運動していた」会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施（表5）についてである。

表5. スポルクラブ入会前に「運動していた」会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	40	24.8
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	7	4.3
体育館や公民館などの体育施設	54	33.5
家の周りや公園	27	16.8
そのほか	33	20.5
合計	161	100.0

体育館や公民館などの体育施設で運動している割合が最も多く33.5％であり、次いでスポルクラブ以外では運動していない割合が24.8％であった。そして、そのほかの割合が20.5％であった。

体育館や公民館などの体育施設で運動している割合は、前出（表2）、入会前の運動実施と合わせてみると、入会前に体育館や公民館などの体育施設で運動していた31.5％より、割合がやや上回る結果となり、また、前出（表4）、入会前に運動していなかった会員が入会後体育館や公民館などの体育施設で運動している3.2％を合わせた割合とほぼ同じになった。

次に、スポルクラブ入会前に運動をしていた項目別に入会後の運動実施状況を分析してみた。

表6は、スポルクラブ入会前に「スポーツクラブやフィットネスクラブ」で運動してい

表6. スポルクラブ入会前に「スポーツクラブ・フィットネスクラブ」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	11	33.3
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	6	18.2
体育館や公民館などの体育施設	6	18.2
家の周りや公園	5	15.2
そのほか	5	15.2
合計	33	100.0

表7. スポルクラブ入会前に「体育館や公民館などの体育施設」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	21	27.3
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	1	1.3
体育館や公民館などの体育施設	46	59.7
家の周りや公園	6	7.8
そのほか	3	3.9
合計	77	100.0

表8. スポルクラブ入会前に「家の周りや公園」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	2	10.0
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	0	0.0
体育館や公民館などの体育施設	1	5.0
家の周りや公園	14	70.0
そのほか	3	15.0
合計	20	100.0

表9. スポルクラブ入会前に「そのほか」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について

	n	%
スポルクラブ以外では運動していない	6	20.7
スポーツクラブ・フィットネスクラブ	0	0.0
体育館や公民館などの体育施設	1	3.4
家の周りや公園	1	3.4
そのほか	21	72.4
合計	29	100.0

た会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

スポルクラブ以外では運動していない割合が最も多く33.3%であった。スポーツクラブやフィットネスクラブで運動している割合は18.2%であり、パーセンテージは入会前（表2）より増加しているが母数が異なり、実数では26から7へ減少していた。

表7は、スポルクラブ入会前に「体育館や公民館などの体育施設」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

体育館や公民館等の体育施設で運動している割合は59.7%であった。パーセンテージは入会前（表2）に体育館や公民館などの体育施設で運動していた割合31.5%より増加しているが母数が異なり、実数では81から46へ約半減している。

表8は、スポルクラブ入会前に「家の周りや公園」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

家の周りや公園で運動している割合は70.0%であった。パーセンテージは入会前（表2）より増加しているが母数が異なり、実数では25から14へ約半減していた。

表9は、スポルクラブ入会前に「そのほか」で運動していた会員の入会後のスポルクラブ以外での運動実施について示したものである。

そのほかで運動している割合が最も多く72.4%であった。パーセンテージは入会前（表2）より増加しているが母数が異なり、実数では35から21へ減少している。

これらのことから、スポルクラブ入会後は、入会前に実施していた運動を続けているもの

の、それぞれの半数程度はスポルクラブでの運動に切り替えている傾向が見られた。とくに入会前にスポーツクラブやフィットネスクラブで運動していた会員は、スポルクラブ入会後多くがスポーツクラブやフィットネスクラブから移行しことが明らかとなり、費用負担が大きいほど、スポルクラブに移行していると考えられる。

まとめ

本研究では、北方圏における総合型地域スポーツクラブ会員の運動実施率について、本学スポルクラブ会員を対象に調査した結果以下のことが明らかとなった。

1. スポルクラブ入会前の運動実施について

スポルクラブ入会前の運動実施については、今回の調査の会員回答者のうち、89名（回答者のうち34.6%）は入会前運動をしていなかったことから、運動実施率向上に確実に貢献していることが明らかとなった。

2. スポルクラブ入会後の運動実施について

スポルクラブ入会後の運動実施については、今回の調査の会員回答者のうち、家の回りや公園で運動している割合は2倍弱の16.4%へ増加し、そのほかも2.4%ではあるが増加しており、スポルクラブに入会したことによって、スポルクラブ以外での運動実施率も向上したことが明らかとなった。

3. スポルクラブ入会前に運動実施がない会員の入会後の運動実施について

スポルクラブ入会前に運動実施がない会員の入会後の運動実施については、ほとんどが

スポルクラブ以外では運動をしていないものの、家の周りや公園、そのほか(8.6%), スポーツクラブやフィットネスクラブ(3.2%), 体育館や公民館などの体育施設(3.2%)を合わせると31.1%がスポルクラブ以外でも運動実施するようになったことが明らかとなり、入会前に運動実施がなかった会員がスポルクラブでの活動を機に、運動実施の範囲が広がったことが明らかとなった。

4. スポルクラブ入会前に運動実施がある会員の入会後の運動実施について

スポルクラブ入会前に運動実施がある会員の入会後の運動実施については、入会前に実施していた運動を続けているものの、それぞれの半数程度はスポルクラブでの運動に切り替えている傾向が明らかとなった。とくに入会前にスポーツクラブやフィットネスクラブで運動していた会員は、スポルクラブ入会後多くがスポーツクラブやフィットネスクラブから移行しことが明らかとなり、費用負担が大きいほど、スポルクラブに移行していることが明らかとなった。

付 記

本研究は、平成25年度北方圏生涯スポーツ研究センター研究費の助成を受けて実施されたものである。

謝 辞

本調査においては、スポルクラブ会員の皆様、指導者、マネージャー、スタッフの皆様にご協力を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

げます。また、これらの調査結果については、今後のクラブ運営に反映させていきたいと思っています。

引用・参考文献

- 1) 江別市(2013) 第5期江別市スポーツ振興計画案2013, 4.
- 2) 工藤奈織美, 山本春江, 杉山克己(2005) 青森市における運動量確保に関する研究—非積雪期と積雪期の比較から—, 青森県立保健大学雑誌 6 (2), 1-7.
- 3) 松畑尚子(2009) 都道府県のスポーツ振興計画におけるスポーツ人口に関する政策指標の研究—スポーツ実施率を中心に—, 体育スポーツ政策研究18 (1), 45-54.
- 4) 文部科学省(2010) 文部科学白書2010, 53.
- 5) 文部科学省(2012) 文部科学白書2012, 266.
- 6) 中川功哉(2009) 北方圏における生涯スポーツ社会の構築に関する総合的研究, 平成16年度～平成20年度私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」研究成果報告書, 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター
- 7) 笹川スポーツ財団(2012) スポーツライフデータ, 23.
- 8) 侘美 靖(2006) 北国における運動の生活化と心身の健康度向上—健脚度関連体力とメンタルヘルス向上からの検討—, 北海道大学大学院教育学研究科紀要 (99), 71-84.